

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.26 2007年10月号

みなさんは「最善観」(さいぜんかん)ということばをご存知ですか? もともとはライブニッツという哲学者がとなえた説で、「神はこの世界を最善につくり給うた」という考え方ですが、教育者であり哲学者として有名な森信三先生がこれをさらに、「この世が最善にできているとしたら、それを構成している一員であるわれわれ自身の運命もまた、その人にとっては、最善という意味を有しなげなければならない」と解釈しています。つまり、自分の身の上で起こる事柄は、そのすべてが、その人にとって絶対必然であるとともに、また最善なはずだという意味です。

わたしたちは日常生活の中でいやなことやつらいことがあると、ついついそのマイナス面だけに目がいきがちになります。でも森先生は、物事にはすべて裏と表があり、自分が不幸と考えた事柄の中にも、深い教訓がこもっていたことがしだいにわかってくる場合も少なくないとおっしゃっています。表面がマイナスであれば裏面には必ずプラスがついているのに、それに気づかず表面のマイナスばかりに気をとられているのは、それこそ不幸だということでしょう。逆に、自分が順調な生活を送っている間はとかく調子にのって、人の情とか他人の苦しみには気づかないものだともおっしゃっています。表面がプラスであれば、裏面にはちゃんとマイナスがくっついているという事実を忘れていているというわけです。

森先生はこの「最善観」をご自身の人生に対する根本信念の一面であり、人間の真の生活態度はこのほかにはないとおっしゃっています。ただ、この真理を受け入れて、自分の生活の一切をこの根本的信念によって処していくのは決して容易ではないともおっしゃっています。つまり、これを道理として納得するのがまず難しいということと、次に、頭ではわかっているのに、いざ自分の身に「不幸」といわれる事柄が起こったときに、やはり、じたばたしてしまうからだそうです。

私はこの「最善観」という考え方に大変共感できますが、でも、日々のつらいことや苦しいことにはやはり、じたばたしています。

みなさんはいかがですか?

